

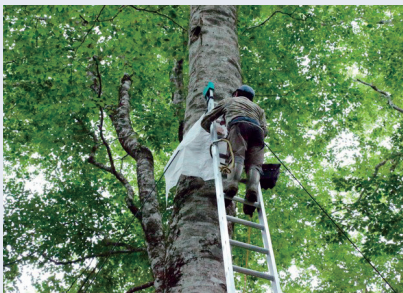
## 1 環境保全プロジェクト助成先を取材

SOMPO環境財団では、公益法人、NPO法人、任意団体が行う環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、「環境保全プロジェクト助成」を実施しています。

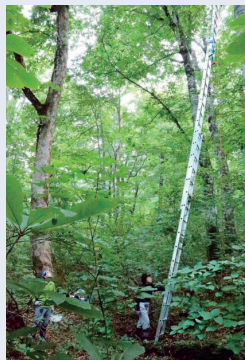
2021年度はコロナ禍に負けない環境保全活動を支援する目的で、対象を例年の10件から15件に増やして、助成プロジェクトを決定しました。今回は、助成先に選定されたNPO法人本州産クマゲラ研究会・理事長の藤井忠志さんに、活動の内容や助成金の使途などをお聞きました。

### ●貴団体はどのような団体ですか？ (活動地域や活動目的など)

当団体は、北東北三県のブナ自然林内で、クマゲラ個体群の生息・生態調査を実施しています。この地域はクマゲラの世界的分布において南限・東端に近く、日本においても最南に位置し、隔離個体群とも言うことができます。当団体ではこの本州産クマゲラ個体群の生態解明と、それをとりまく自然植生・野生生物の保護・保全に寄与することを目的としています。



巣立ち後の巣内残留物採取作業



### ●現在はどのような活動に取り組んでいますか？

大きく分けて以下5つの活動に取り組んでいます。

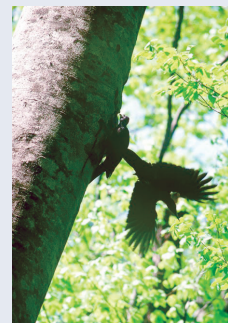
①本州産クマゲラ個体群の生息・生態調査事業

- ②本州産クマゲラ個体群の未知なる生態(解明)研究事業
- ③本州産クマゲラ個体群をとりまく自然植生・野生生物の保護・保全普及啓発事業
- ④早池峰山のライチョウ生息可能性調査
- ⑤「クマゲラの世界」展の巡回展示

有志の任意団体としてはじめての活動ですが、現在はNPO法人となり、団体の継続的な強化を図っています。これまでの四半世紀にわたる研究を総括しながら、本州産クマゲラの生息調査・生態解明に取り組んでいます。

### ●当財団の助成金はどのように活用される予定ですか？

主に調査旅費や調査謝金に活用する予定です。過去33年間に本プロジェクトで助成を受けた総額は1,868万円ほどで、調査機材・団体装備等はほぼ備品として備わっています。しかし、財源として会費を徴収せずに助成金と寄付金で活動しているため、調査員の旅費は個人の持ち出しとなっている状況でした。そのため、今回の助成金では15万円を調査員旅費とし、残り5万円を白神山地の案内人(最後の赤石マタギ頭領)のガイド料として役立つ予定です。

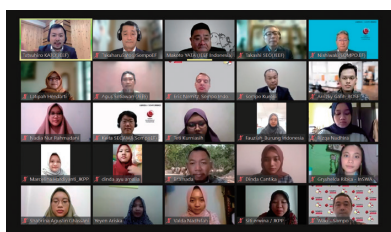


白神山地クマゲラ抱卵交替の瞬間

藤井さん、ご回答ありがとうございました。小さな任意団体から始まった活動が長年の地道な積み重ねにより、白神山地をはじめとした多くの森林の開発見直しなど、林野行政に影響を及ぼすまでに広がっているとのお話もあり、感銘を受けました。本助成制度が、地域の環境課題解決に向けた今後の活動に少しでもお役に立てば幸いです。これからも本州産クマゲラの保護、ひいては周辺森林環境の保全への取り組み、がんばってください！

## 2 インドネシア版CSOラーニング制度第3期生の修了式を開催しました

環境財団ではインドネシアの大学生・大学院生を現地のNGOにインターン派遣する環境教育プログラム「NGOラーニング制度」を2019年からジャカルタ近郊で実施しています。10月22日、第3期生となる修了生20名の修了式をオンラインで開催しました。参加した学生達は、現地で生物多様性の保全、ゴミ問題、環境教育など環境問題に取り組むNGO 6団体で8か月間インターン活動を経験しました。



修了式の様子

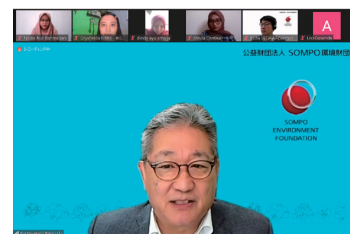
修了式では、西協財団専務理事から「若いリーダーとして環境問題を解決し、インドネシアの発展に貢献してほしい」との激励の言葉が贈られ、学生代表は「この制度を通じて志を同じくする多くの仲間やNGOと知り合うことができた。修了後も環境保護のために協力

して頑張りたい」と決意を新たにしていました。

また、この制度を現地で支援するSOMPOインドネシア(SII)のEric Nemitz CEOからは、次年度から新たに修了生が行う環境活動に対してSIIが資金を提供する「SOMPO Alumni Idea Fund」の設立が発表されました。



修了生代表のプレゼンテーション



西協専務理事あいさつ

インドネシアは急速な経済発展に伴い、森林破壊やゴミ問題など様々な環境問題も顕在化し大きな社会問題となっています。若者の環境活動を支援する本制度の人気も高く、募集中の第4期プログラムには定員を大きく超える169名の応募が寄せられています。

環境財団では、大学生・大学院生を環境問題に取り組むCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含する概念）に8か月間インターンとして派遣する「CSOラーニング制度」を実施しています。2000年に開始したこの制度も今年で22年目。すでに1,167名の修了生を送り出しています。今回からシリーズで、インターンを派遣しているCSO団体のご担当者様に取材をし、インターンが普段どのような業務を行っているのか、インターンに期待すること等を伺ってまいります。ご期待ください！

## Question

- ①. インターンはどのような業務をしていますか？ ②. インターンにはどのような期待をしていますか？  
③. CSOラーニング制度についてのお考えをお聞かせください。

01

関東地区 認定NPO法人高木仁三郎市民科学基金  
白井 聡子 様



- A1** ラーニング生ご本人の希望や適性、活動スタイル（対面/オンライン）によっても毎年多少異なりますが、助成事業の成果のまとめや発信（助成報告会の運営やレポートの整理、ウェブサイトの更新関連作業、SNSでの発信等）についてはどの方にも共通して関わっていただいています。
- A2** 弊団体は、主な活動が市民科学者（個人・グループ）への助成事業という中間支援的な役割を持つため、独自の”現場”を持っていません。そのため、ラーニング生の関心事や将来希望する進路の方向性が具体的なほど、その目的に直接的な影響を与えるものにはならないかもしれません。しかし、学生時代こそ、一般教養を幅広く学べる貴重な機会だと捉え、様々な社会課題に熱意を持って取り組む市民科学者（=助成対象者）の調査研究に触れて、ラーニング生ご自身の何らかの学びにつなげてもらえれば嬉しいです。
- A3** 貴団体、各CSO、そして次世代を生きる学生の3者をwin-winにつなげるこの制度は、本当に素晴らしいと思いますので、環境分野に限らず、こうした動きが他にも広がっていければよいと思いました。CSOラーニング制度発の独自プロジェクトも期待しています！

02

関西地区 NPO法人愛のまちエコ倶楽部  
伊藤 真也 様



- A1** 環境学習の体験準備・実施補助。館内見学の一部を担当実施。グリーンツーリズム（農業体験）の現場補助。イベント出店・ワークショップの準備・実施補助。データ集計・アンケートまとめ等、事務業務。
- A2** 活動を通して多くのヒトと交流し様々な考えに触れ、手と足を動かして色々なモノに触れる経験を重ねることで、自ら考え小さなことから実践・行動していく力を培ってほしいです。また若い世代の目線で地域の課題に向き合うことで新しい可能性や柔軟な発想・アイデアを期待しています。
- A3** 学生さんと時間を共有できる貴重な制度であり、現場で若い力に大変助けられております。また20年にわたりCSOラーニング制度が継続していることで活動後もOB・OGが関わりを持ち続けてくれることもあり、私たちの団体にとっても大切な取組みの一つとなっております。社会全体の中でも一人の市民として考えや意識を持つことで自分ごととしてこれからの「木を植える人」へと成長していくことを期待しています。

03

愛知地区 公益財団法人オイスカ中部日本研修センター  
中村 仁美 様



- A1** イベントの運営や補助、有機農業のお手伝い、広報活動（SNS発信など）、事務作業などの業務をお願いしています。また、当団体は海外の研修生がいるので、研修生へ日本語の指導や生活の指導・研修補佐などもいただいています。
- A2** ラーニング生として来てくださる学生さんは環境問題に興味関心があることは共通していますが、皆さんそれぞれ得意分野や専門分野が違うので、皆さんのアイデアや考え、自分が挑戦してみたいことをどんどん出し、当団体の活動を一緒に盛り上げてほしいです。また、当団体での活動を通して発見・感動・学びを得て、ラーニング生の成長に繋がればうれしいです。
- A3** 意欲のある学生達が実際にNGOやNPOの現場で活動することで、自分が将来どのように社会貢献をするか、今の自分にできることを考え、成長できる素晴らしい制度だと思います。8か月間たっぷり時間があるので、体験だけで終わらず、派遣先団体の一員という自覚が生まれ責任をもって活動できるのではないかと思います。また、私達にとっても学生さんの素直で一生懸命な姿を見ると元気をいただけます。ラーニング生と関われることを大変難しく思います。

04

宮城地区 NPO法人環境会議所東北  
海藤 節生 様



- A1** コロナ禍という状況下、在宅で「持続可能な調達」について学び、持続可能な社会推進に向けた「つくる責任、つかう責任」についての情報収集、整理する業務と、当会員企業の活動がSDGsとどのように紐づいているのかを拾い出しまとめる業務を2名が担当しております。
- A2** まずは環境について現状を知り、サステナブルな社会形成に様々な要因が存在すること、その要因がグローバルにクロスオーバーしていることを自分事化できる感性を身に付けて欲しい。調査を進めていく中で、これまであまり気にも留めなかったことが環境に影響していることを理解するに至ったことで、楽しく業務に励んでいる姿が新鮮である。これからの長い人生、頭の中で解決してしまいがちな環境問題を、「持続可能な調達」という立ち位置から、課題解決に向け行動できる人に育っていくことを期待したい。
- A3** わずか2年間だが、社会活動に興味関心が強く知識向上に意欲溢れる学生を担当した。幼小中高と学び育まれた知識や能力を、社会にどのように還元するのか？「学びは社会の為にある」という持論の下で、日常教育現場と関わっている小生。インターンシップにとっても有効だと思われる事業所は宮城県内にも少なくはない。働きがい求められる現代、木を植える人を育てたい！という理念のもとに始まったCSOラーニング制度は、学生生活の中で貴重な経験となるであろう。可能であれば受け入れ先をもう少し他分野にも広げていただければ、活動の中で学生たちが多様な経験を積み、その体験を共有していければ志し教育の一助にもつながっていくと思う。